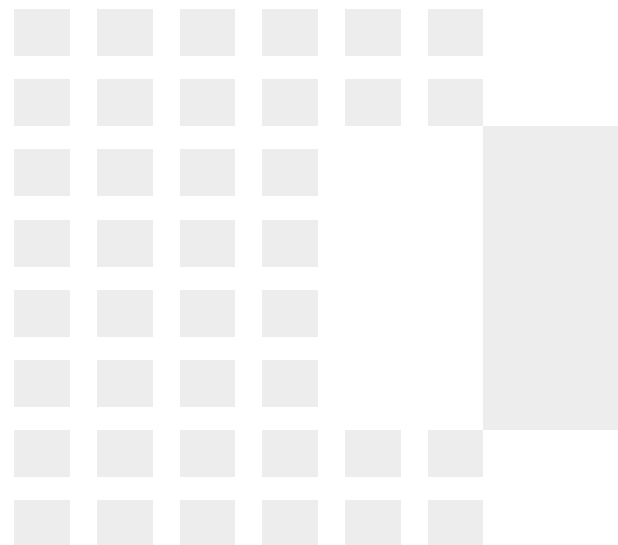




Think Automation and beyond...

2022年3月期 第3四半期 (2021年4月1日～2021年12月31日) 決算説明資料

2022年2月3日
IDEC株式会社
証券コード：6652



売上

- **売上高** 523億円 (前年同期比 1.3倍)
 - 製造業の設備投資需要が予想を超える高い水準で推移したことから、全地域、全製品群で売上が好調に推移

利益

- **営業利益** 72億円 (前年同期比 2.6倍)
- **経常利益** 75億円 (前年同期比 2.8倍)
- **当期純利益** ※ 53億円 (前年同期比 3.3倍)

※親会社株主に帰属する当期純利益

- 売上改善や原価率低下などにより前年同期比で大幅に収益が向上

連結業績概要 <連結損益計算書> - 1

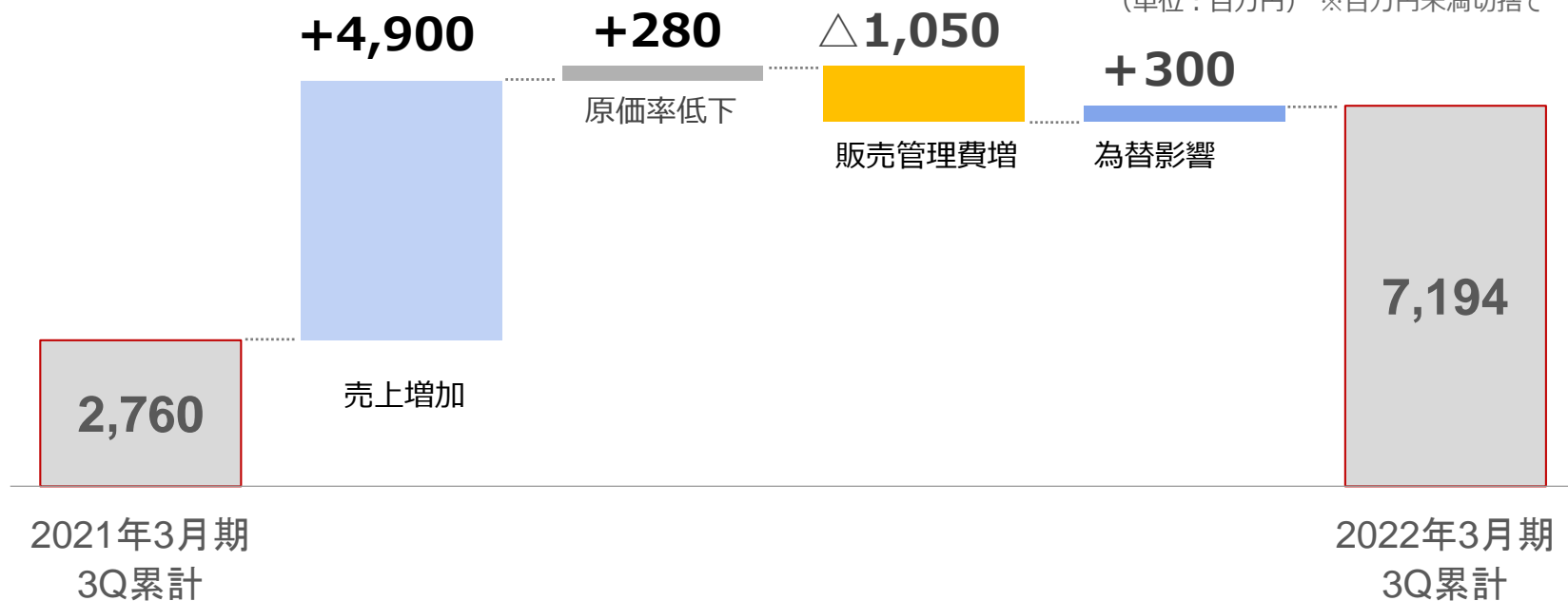


(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2021年3月期 3Q累計		2022年3月期 3Q累計		
	実績	対売上比	実績	対売上比	前年同期比
売上高	39,138	100.0%	52,255	100.0%	+ 33.5%
売上総利益	16,520	42.2%	22,434	42.9%	+ 35.8%
販売費及び一般管理費	13,760	35.2%	15,239	29.2%	+ 10.8%
営業利益	2,760	7.1%	7,194	13.8%	+160.6%
経常利益	2,649	6.8%	7,491	14.3%	+182.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,589	4.1%	5,303	10.1%	+233.7%
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整前)	52.53円	—	176.81円	—	+124.28円
USDレート (円)	106.11円		111.14円		+5.03円
EURレート (円)	120.94円		129.86円		+8.92円

連結営業損益変動要因

売上高の増加や為替の影響などにより、営業利益は前年同期比で約44.3億円増加

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



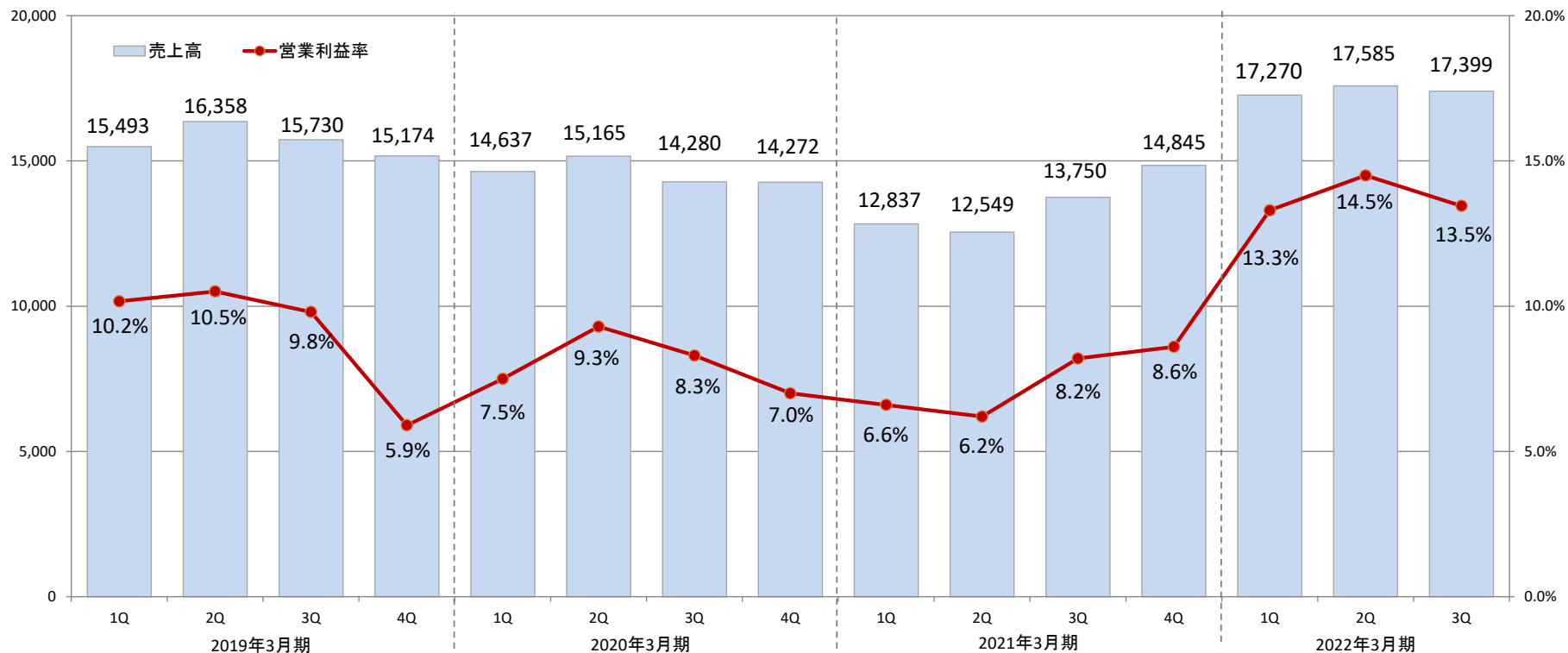
連結業績概要 <連結損益計算書> - 2



	2021年3月期				2022年3月期							
	3Q(10月~12月)		4Q(1月~3月)		1Q(4月~6月)		2Q(7月~9月)		3Q(10月~12月)			
	実績	対売上比	実績	対売上比	実績	対売上比	実績	対売上比	実績	対売上比	前年同期比	
(単位:百万円) ※百万円未満切捨て												
売上高	13,750	100.0%	14,845	100.0%	17,270	100.0%	17,585	100.0%	17,399	100.0%	+26.5%	
売上総利益	5,741	41.8%	6,263	42.2%	7,300	42.3%	7,619	43.3%	7,514	43.2%	+30.9%	
販売費及び一般管理費	4,607	33.5%	4,981	33.6%	4,999	28.9%	5,066	28.8%	5,173	29.7%	+12.3%	
営業利益	1,133	8.2%	1,281	8.6%	2,300	13.3%	2,552	14.5%	2,340	13.5%	+106.4%	
経常利益	1,130	8.2%	1,454	9.8%	2,436	14.1%	2,586	14.7%	2,468	14.2%	+118.5%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	499	3.6%	1,213	8.2%	1,799	10.4%	1,727	9.8%	1,776	10.2%	+255.9%	
1株当たり 四半期純利益 (潜在株式調整前)	16.65円		40.47円		60.01円		57.58円		59.22円			

売上高・営業利益率 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



仕向地別売上状況

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て (構成比)	2021年3月期 3Q累計	2022年3月期 3Q累計	前年 同期比
日本	17,626 (45.0%)	22,477 (43.0%)	+27.5%
海外	21,511 (55.0%)	29,778 (57.0%)	+38.4%
米州	6,219 (15.9%)	8,411 (16.1%)	+35.2%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	6,452 (16.5%)	8,744 (16.7%)	+35.5%
アジア・ パシフィック	8,840 (22.6%)	12,621 (24.2%)	+42.8%
合計	39,138 (100.0%)	52,255 (100.0%)	+33.5%

日本 前年同期比 **+27.5%**

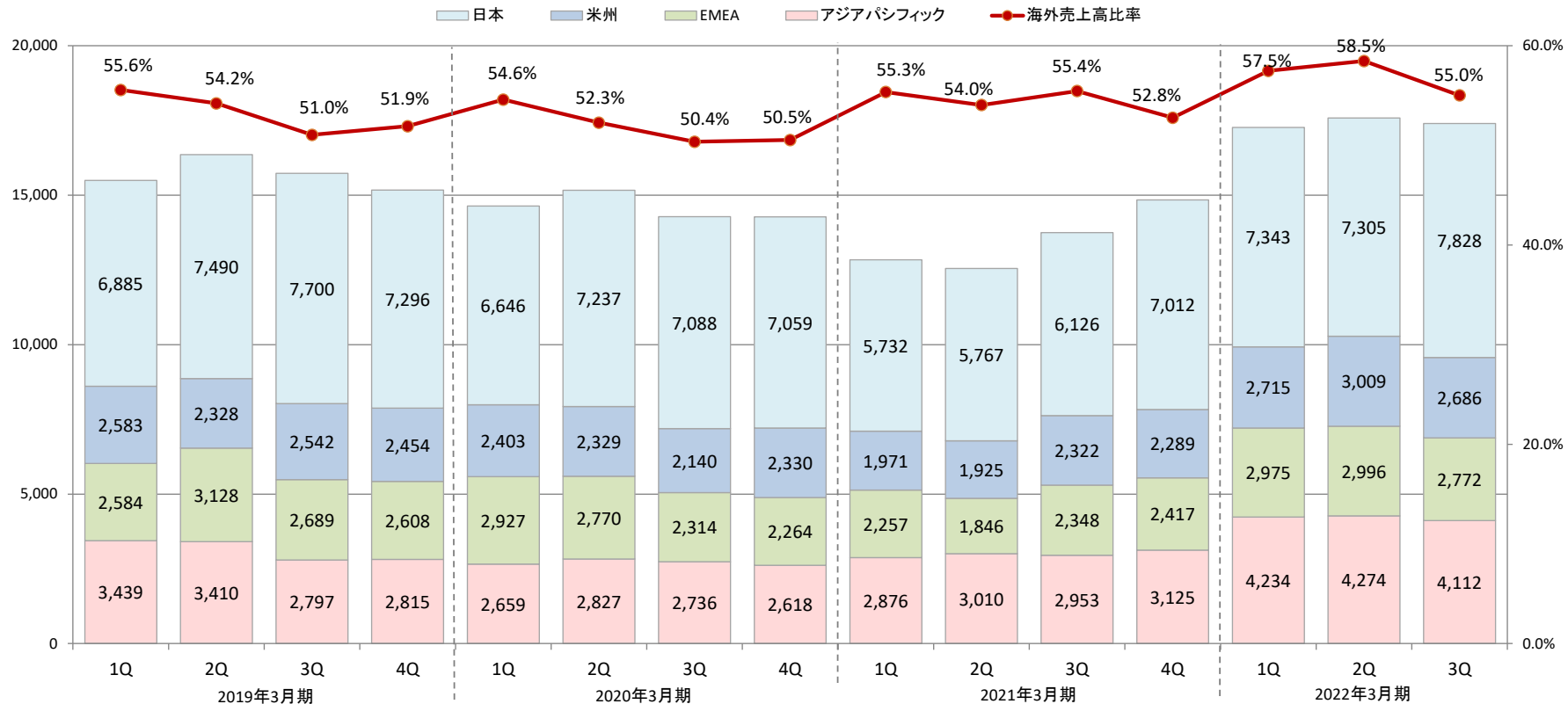
- 半導体関連・自動車関連・工作機械・ロボット業界等の需要が大幅に回復、急拡大したことから、主力のスイッチ事業を中心に受注が予想を超える水準で増加し、売上も伸長

海外 前年同期比 **+38.4%**

- アジア・パシフィック、米州、欧州において需要の回復が進んでいることから、各製品群において売上が増加

仕向地別売上状況 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



(単位：百万円) ※百万円未満切捨て (構成比)	2021年3月期 3Q累計	2022年3月期 3Q累計	前年 同期比
スイッチ事業	18,329 (46.8%)	24,542 (47.0%)	+33.9%
インダストリアル コンポーネツ事業	7,253 (18.5%)	10,062 (19.2%)	+38.7%
オートメーション事業/ センシング事業	5,769 (14.8%)	7,527 (14.4%)	+30.5%
安全・防爆	4,704 (12.0%)	6,549 (12.5%)	+39.2%
システム	2,227 (5.7%)	2,645 (5.1%)	+10.0%
その他	853 (2.2%)	928 (1.8%)	+37.5%
合計	39,138 (100.0%)	52,255 (100.0%)	+33.5%

※2022年3月期より、製品種類別の区分を一部変更しております。
過去の数値についても組み替えた数値で比較しております。

スイッチ事業

設備投資需要の急拡大により、全地域において売上が伸長

インダストリアルコンポーネツ事業

主力の米州、中国において制御用リレーの売上が好調に推移

オートメーション事業／センシング事業

日本、米州、EMEAで、プログラマブル表示器やプログラマブルコントローラの需要が急速に回復

安全・防爆事業

設備投資需要が順調に回復し、国内外で売上が増加

システム

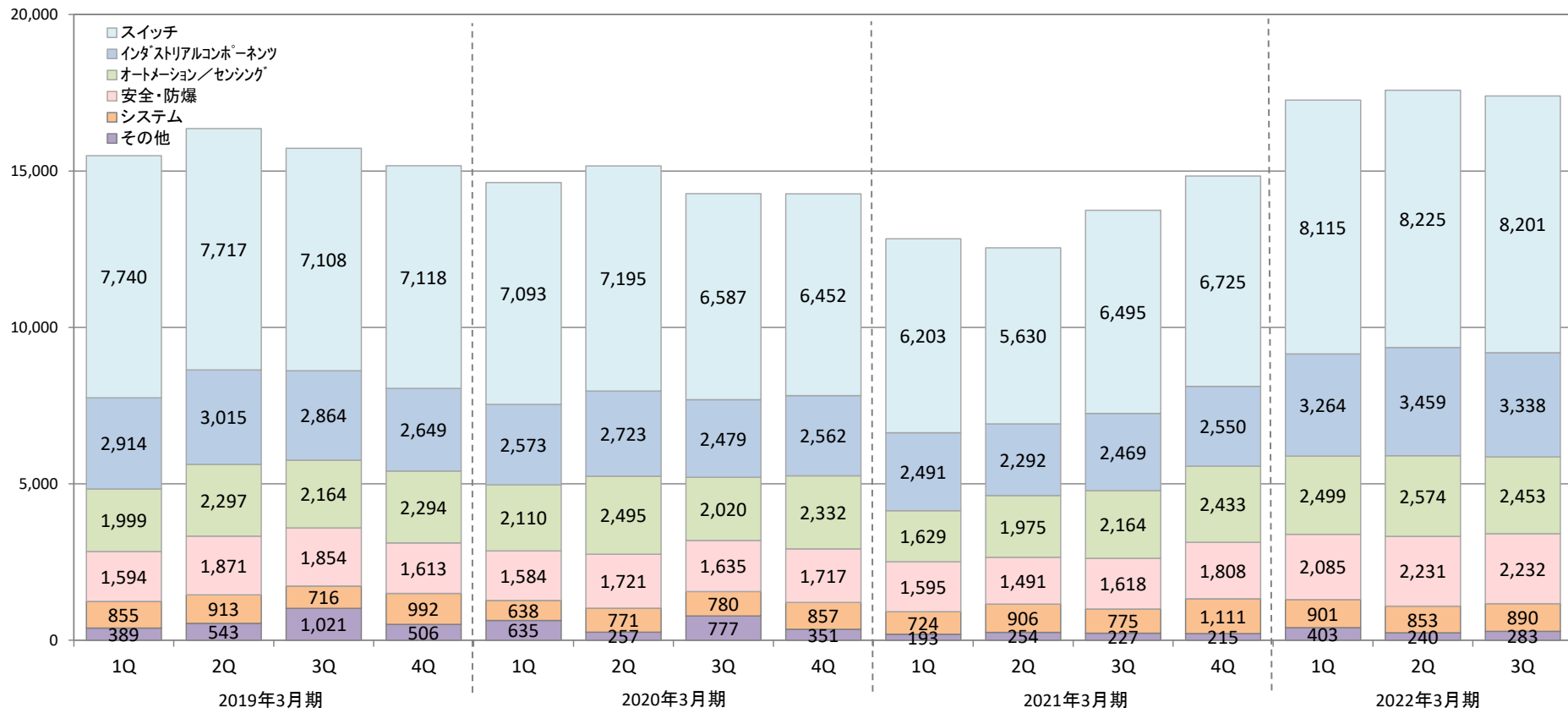
日本で半導体・液晶製造装置用などの制御盤の売上が増加

その他

日本において、環境・エネルギー関連事業の売上が回復

製品別売上状況 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



	2021年3月期 3Q累計		2022年3月期 3Q累計			
	受注高	受注残高	受注高	前年 同期比	受注残高	前年 同期比
単位：百万円 ※百万円未満切捨て						
日本	20,499	4,732	35,174	+71.6%	16,069	+239.5%
米州	6,604	1,615	10,952	+65.8%	4,459	+176.1%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	6,395	3,106	11,182	+74.9%	5,853	+ 88.5%
アジア・ パシフィック	6,690	1,918	12,469	+86.4%	5,345	+178.6%
合計	40,188	11,372	69,779	+73.6%	31,727	+179.0%

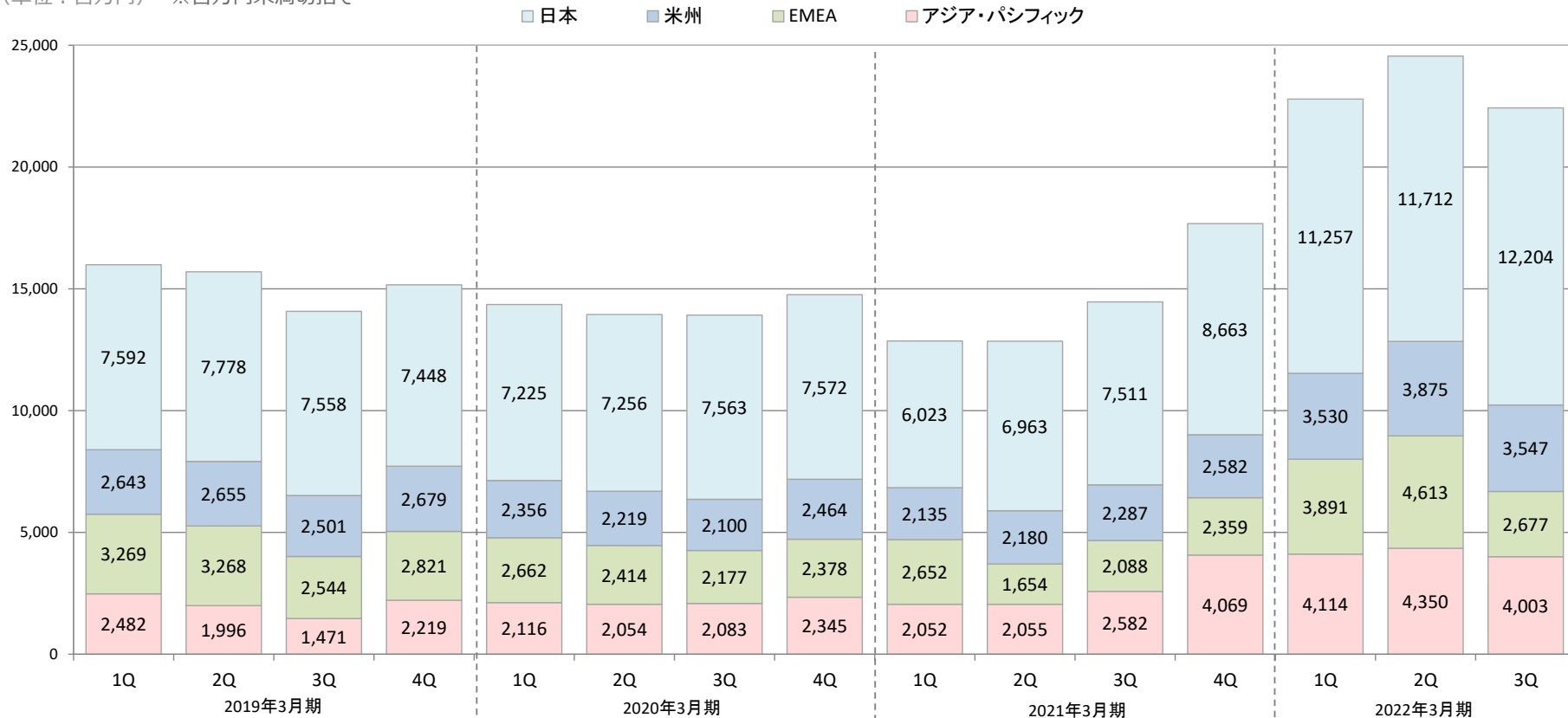
受注状況 (四半期推移)



単位:百万円 ※百万円未満切捨て	2021年3月期				2022年3月期					
	3Q(10月~12月)		4Q(1月~3月)		1Q(4月~6月)		2Q(7月~9月)		3Q(10月~12月)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
日本	7,511	4,732	8,663	5,789	11,257	8,941	11,712	12,448	12,204	16,069
米州	2,287	1,615	2,582	1,895	3,530	2,537	3,875	3,520	3,547	4,459
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	2,088	3,106	2,359	3,150	3,891	4,309	4,613	5,923	2,677	5,853
アジア・ パシフィック	2,582	1,918	4,069	3,368	4,114	3,939	4,350	4,801	4,003	5,345
合計	14,470	11,372	17,675	14,203	22,795	19,728	24,551	26,694	22,432	31,727

受注状況 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



連結業績概要 <連結貸借対照表>

資産のポイント

- 無形固定資産や現金及び預金が減少した一方、棚卸資産や売上債権が増加したことなどにより、総資産は前期末比35.3億円増加

負債のポイント

- 仕入債務が増加した一方、借入金が減少したことなどにより、総負債は前期末比13.7億円減少

純資産のポイント

- 利益剰余金や為替勘定調整勘定の増加などにより、純資産は前期末比48.9億円増加

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2021年3月期 (前会計年度)	2022年3月期 (12月末)	前会計年度末比 増減
流動資産	39,815	43,992	+4,176
固定資産	48,436	47,785	△ 650
流動負債	18,959	19,342	+ 383
固定負債	26,180	24,429	△1,750
純資産	43,111	48,005	+4,893
総資産	88,252	91,778	+3,526
自己資本比率	48.7%	52.0%	+3.3%

連結業績概要 <連結CF計算書>

営業活動によるCF

- 売上債権や棚卸資産の増加、税引前純利益の計上などにより、前年同期比で約18.1億円増の61.1億円

投資活動によるCF

- 固定資産の取得や事業譲受などにより、前年同期比で約3億円支出減の△21.4億円

財務活動によるCF

- 借入金の返済や配当金などの支出により△56億円

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て

	2021年3月期 3Q累計	2022年3月期 3Q累計	前年同期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,300	6,107	+1,806
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,439	△2,142	+ 297
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	1,860	3,964	+2,103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,412	△5,595	△3,182
現金及び現金同等物の期末残高	13,502	13,831	+ 328
設備投資額	2,661	1,498	△1,163
減価償却費	2,266	2,436	+ 169

2022年3月期 通期の業績予想

業績予想は上期から変更なし

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2021年3月期		2022年3月期		
	実績	対売上比	修正予想	対売上比	前期比
売上高	53,983	100.0%	69,000	100.0%	+ 27.8%
売上総利益	22,783	42.2%	29,500	42.8%	+ 29.5%
販売費及び一般管理費	18,742	34.7%	20,300	29.4%	+ 8.3%
営業利益	4,041	7.5%	9,200	13.3%	+127.6%
経常利益	4,104	7.6%	9,200	13.3%	+124.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,803	5.2%	6,900	10.0%	+146.1%
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整前)	92.83円	-	230.04円	-	+137.21円
USDレート (円)	106.10円		108.00円		+1.90円
EURレート (円)	121.88円		128.00円		+6.12円

2022年3月期 連結業績予想

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2021年3月期 実績	2022年3月期	
		修正予想	前期比
スイッチ事業	25,054	32,400	+29.3%
インダストリアルコンポーネンツ事業	9,803	13,900	+41.8%
オートメーション事業／センシング事業	8,203	9,200	+12.2%
安全・防爆	6,513	8,500	+30.5%
システム	3,516	4,000	+16.6%
その他	891	1,000	+13.8%
合 計	53,983	69,000	+27.8%
国内売上高	24,638	29,300	+18.9%
海外売上高	29,344	39,700	+35.3%
(海外比率)	54.4%	57.5%	

2022年3月期の取り組み

取り組み方針

事業活動を通じた社会課題の解決、高収益体質に向けた変革を
”Lean & Smart” で実現し、企業価値の向上を図る。

成長戦略の推進

- 地域・業界軸でのニーズに基づく製品開発、立上加速
- 中国における事業拡大、地産地消の推進
- 国内販売チャネル再編、技術課題解決型販売強化
- M&Aや提携を含めた戦略的パートナーシップ構築

収益性の向上

- グループ全体最適に向けた製品統廃合推進
- 生産体制・プロセス見直しによる在庫削減・納期短縮
- 戦略的なコストダウンテーマ推進
- 不採算製品・事業の選択集中

経営基盤の強化

- 働き方改革の推進
- PMI推進による基盤強化
- 高収益体質に向けた構造改革の推進

ESGの取り組み強化

- 【E】環境負荷低減に向けた取り組み推進
- 【S】ダイバーシティの推進
- 【G】経営の透明性・効率性の向上

- 今期グループ化したスキューズ社をはじめ、IDECグループが一体となって**技術営業体制を構築**
- 最も強みを持つ、**HMIや安全をコアとしたシステムソリューション**を提供し、**カスタマーサクセスを実現**
- さまざまな業界の**リーディングカンパニーとのコラボレーション**により新製品開発、販売網拡大を推進

【日本】

- ✓ 国内営業所の集約による効率化、**固定費削減**
- ✓ HMIや安全をコアとした**システムソリューションの戦略的な展開**

【グローバル】

- ✓ デジタル媒体の活用による新規顧客開拓、売上拡大の推進
- ✓ **現地ニーズを踏まえた迅速な製品企画・開発**
- ✓ **サプライチェーン改革・コストダウンの推進**
- ✓ IDECとAPEM社の販売シナジーの実現

【戦略的パートナーシップ】

- ✓ IDEC ALPS Technologies設立による製品開発力の強化

- 収益性向上に向けた**製品価格の適正化**
 - 新技術を活用した**新製品比率の向上**、および付加価値の向上
-
- ✓ 部材価格上昇を踏まえた価格改定、および取引やプロダクトミックス見直しによる**粗利改善**
 - ✓ 拠点再編や構造改革による**固定費の低減**
 - ✓ 製品統廃合の推進
 - ✓ グローバル生産拠点・サプライチェーン再編
 - ✓ 新たな設備の導入による効率化、生産キャパシティの拡充

- 全社のデジタル化加速による、業務の効率化と経営のスリム化

【デジタルマーケティング】

- ✓ グローバルでのDMTプロジェクト推進、新規顧客開拓・営業プロセスの効率化
- ✓ スタジオを活用した国内外向けウェビナーやIR説明会などの配信、デジタルコンテンツの拡充

【DX・業務改革】

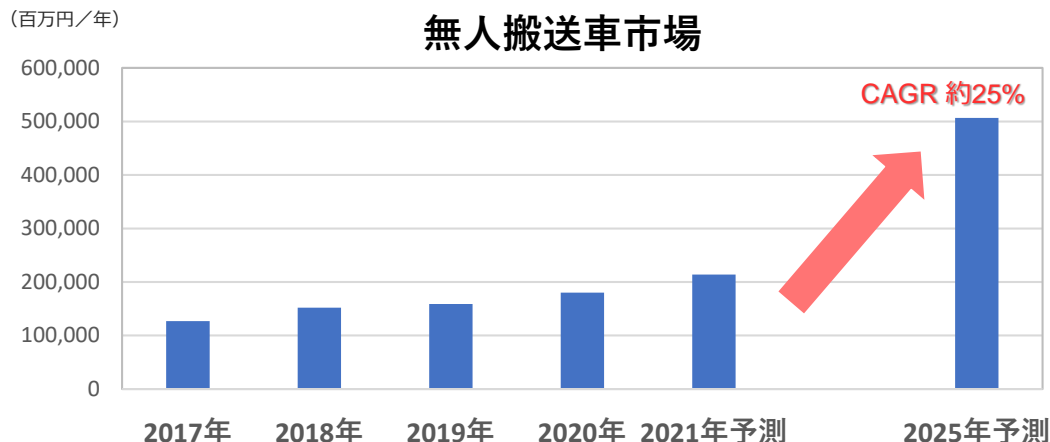
- ✓ 営業支援、人事システムの刷新などによる効率化・全社最適化の推進
- ✓ 業務改革、基幹システムの見直し推進
- ✓ LMS（Learning Management System）構築、代理店サポート・教育への活用

【働き方改革】

- ✓ リモートワークの推進、柔軟な働き方を前提とした制度の見直し
- ✓ Office365を活用したコミュニケーション基盤の構築

ez-Wheel社とのパートナーシップ契約締結

- 深刻化する労働力不足を補うため、**今後年平均25%の市場成長が見込まれる**AGV/AMR、電動アシスト技術があらゆる業界で活用され始めており、アプリケーションの多様化が推進



- **労働力不足を補うシステムを、簡単に、安全に構築できるソリューションが必要**であるという課題を認識し、解決の手段を模索していたところ**ez-Wheelと出会い、パートナーシップ契約を締結**

- このパートナーシップにより、最終的には、ソフトウェアを含むAGV/AMRを構築するための完全なソリューションパッケージの提供を目指す
- ez-Wheelの提供するソリューションは、「人と機械の最適環境を創造」するというIDECのMissionに沿っているだけでなく、人々の職場におけるウェルビーイングの向上と、お客様のシステムの安全なモバイルロボット化、という市場トレンドに合致





会社名	ez-Wheel SAS
代表者の役職・氏名	Chief Executive Officer, Antoine Juan
事業内容	自律型電動ホイールの開発、製造、販売
創業・設立	2009年11月



拠点：フランスのアングレーム

2020年、**世界で初めて移動ロボット向けに安全モーション監視機能を統合した安全自律走行ホイールを発表**



世界最大のマテハン展示会で
アワード受賞

Motek-fair handling
award 2020

Electric Power Assist Wheel

電動アシストホイール

電動アシストホイールによる
重量物搬送の負荷を軽減

Wellbeing

人々がよりイキイキと働ける環境を実現する力

食品業界



物流業界



医療・介護業界



屋外環境業界



人手不足・高齢化社会
という現代の深刻な課題に
対応する為、
電動アシストホイール
安全自律走行ホイール
を提供する ez-wheel との
新たなパートナーシップ
を構築

ez-wheel
The Electric Wheel

Safety Wheel Drive

安全自律走行ホイール

安全自律走行ホイールによる
自動搬送の労働力不足を解消

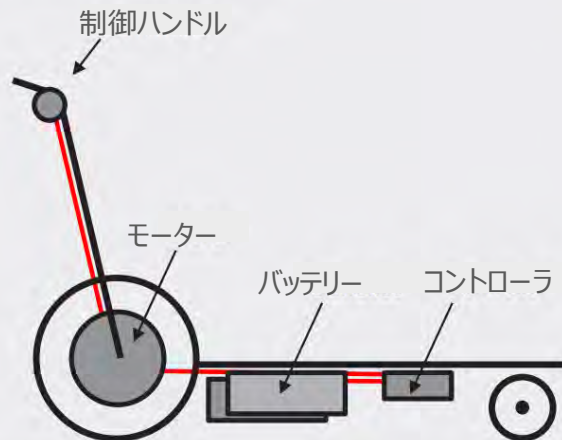


無人自律搬送車両

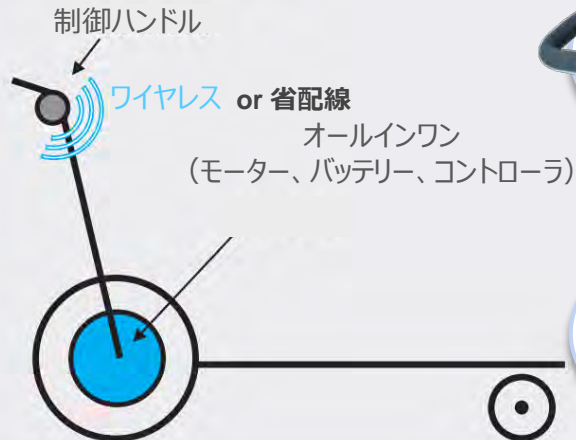


最初のステップとして、2022年4月より日本での独占販売を開始

従来の電動アシスト



ワイレス電動アシスト

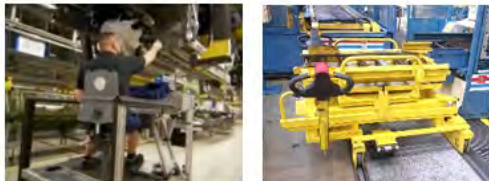


- オールインワン構造によるシンプルな構成で、現在使用しているカートを簡単に電動アシスト化し、重量物搬送の負担を軽減
- ハンドルとホイールをワイレスで通信し、配線が不要な「ワイレスタイプ」と、シンプルな配線で構成できる「省配線タイプ」をラインアップ



豊富なアクセサリでアプリケーションに最適な構成を選択可能

自動車業界



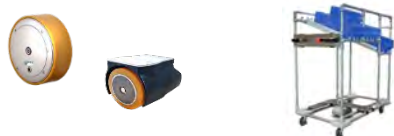
工業



食品業界



物流業界



医療業界



屋外



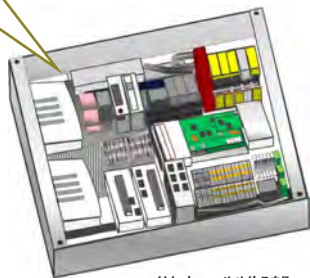
AGV/AMR アプリケーション向けに開発されたオールインワンホイールソリューション

人と同じエリアで運行する場合に国際安全規格で要求される「安全モーション機能」を含め、走行に必要な全ての機能をオールインワンに

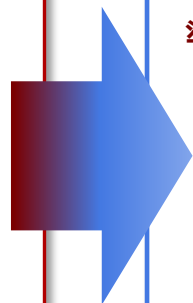


自律走行に必要な制御機器

モータードライバー	コンタクター
産業 PC	リレー
安全 PLC	電源
Wi-Fi ルーター	端子台
バッテリー	ケーブル
バッテリーマネージメント	etc...



従来の制御盤
高張る、コストが高くなる...



Safety Wheel Drive オールインワンホイール

自律走行に必要な駆動制御
+
国際安全規格 ISO3691-4 に
準拠した「安全モーション監視機能」



- ・ 大幅な省工数/省配線
- ・ 開発期間の短縮
- ・ まるごと防水構造 IP66
- ・ AGV/AMRの設計の柔軟性向上



■ 自律走行に必要な駆動制御と安全機能を備えた「オールインワン構造のホイール」のため、AGV や AMR を簡単に構築可能

安全柵で覆われた制限エリアで稼働



人と共存するエリアで稼働



ISO3691-4は既に2020年に欧州ではCEN（欧州標準化委員会）に承認され、先行してEN規格として標準化されており、日本でも2022年にJIS化を予定しています。

ISO3691-4に適合する場合、人と共存するエリアで稼働する場合は経路内の「**人検知の為の安全装置**」と、「**安全モーション監視機能**」が必要になります。

経路内の人検知の為の安全装置



SE2L シリーズ

セーフレーザースキャナ

IEC61496-2:2013 及び
IEC61496-3:2018 準拠
電気感光性保護装置 (ESPE)



E22BK シリーズ

セーフティエッジスイッチ

ISO13856-2:2013 及び
ISO13856-3:2013 準拠
感圧保護装置

安全モーション監視機能

STO (Safe Torque OFF)

安全トルク遮断

SLS (Safety Limited Speed)

安全速度制限

SBC (Safe Brake Control)

安全ブレーキ制御

SDI (Safe Direction)

安全回転方向制限 etc...

※ 安全モーション監視機能は一般的には安全モーションコントローラーや安全エンコーダーによって搭載されます。

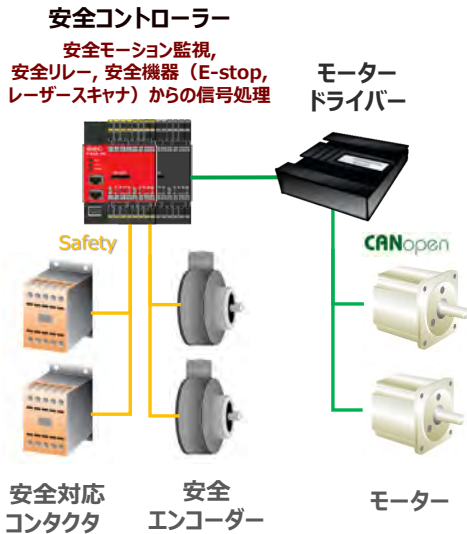
車両は安全装置によって、安全に人との接触を避け、車両の動きは**安全モーション監視機能によって安全に監視される必要があります。**

人検知の為の安全装置と安全モーション監視機能が無い場合は、車両の速度が約時速 1 km以下に制限され、動きが大幅に制約されます。

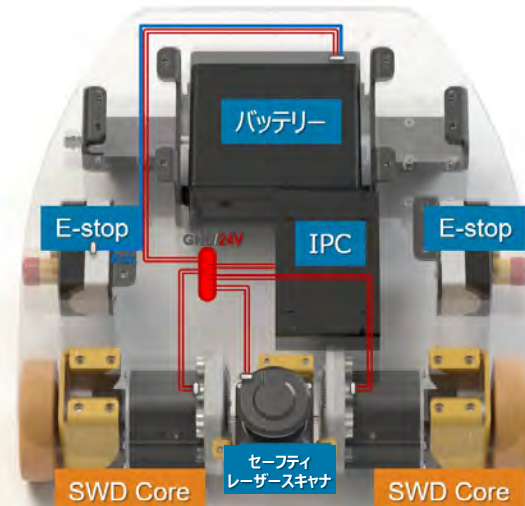
AMRシステムの基本構成 with SWD



SWD Core に統合されている機能



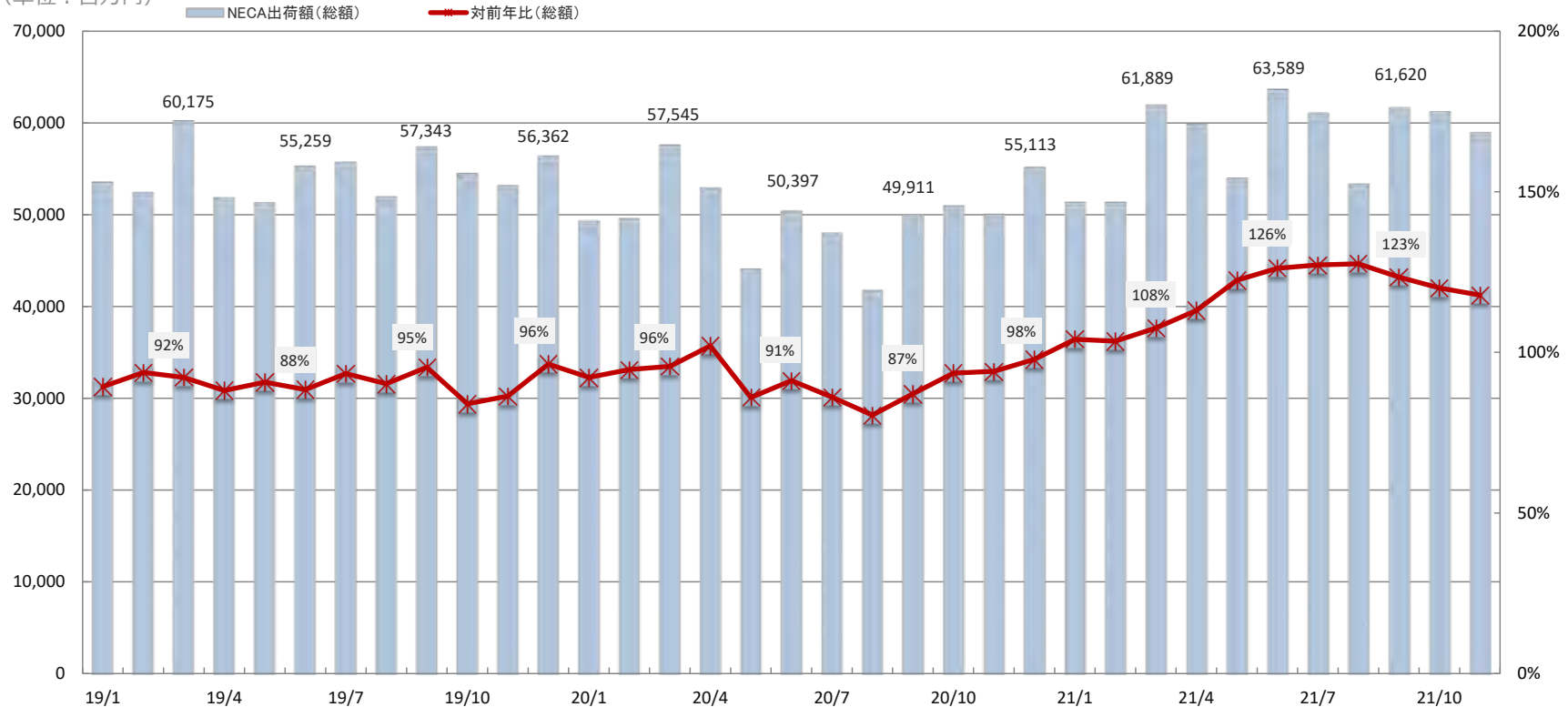
モーション・セーフティ機能が SWD に集約
シンプルな構成でAMR/AGVを構築



參考資料

19年1月～21年11月の業界出荷額推移と対前年比の状況

(単位：百万円)



スイッチ	インダストリアル コンポーネツ	オートメーション/ センシング	安全・防爆	システム	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・制御用操作スイッチ ・ジョイスティック ・表示灯  <p style="background-color: red; color: white; text-align: center; padding: 5px;">APEM製品</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチング電源 ・端子台 ・制御用リレー/ソケット ・サーキットプロテクタ ・産業用LED照明   	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラマブルコントローラ ・プログラマブル表示器 ・光電スイッチ ・自動認識機器      	<ul style="list-style-type: none"> ・安全関連機器 ・防爆関連機器     	<ul style="list-style-type: none"> ・協働ロボットシステム ・表示器複合システム ・セキュリティシステム ・その他各種システム   	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・エネルギー関連事業 ・次世代農業ソリューション  

この資料には一部当社の計画や業績予想が含まれていますが、それらの計画や予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が計画、予想したものです。
従いまして、実際の業績などは、今後さまざまな要因によって計画、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

IDEC株式会社

経営戦略企画部

TEL : 06-6398-2505

FAX : 06-6398-2587

E-mail : yasuyuki.ogawa@idec.com

